

三里塚-反合を基軸に 本物の労働運動をつくり出そう



会場うめ尽した1930名の闘う仲間が熱心に基調報告に聴き入った。(36.野志野文化ホール)

三・六全国労働者集会は、全国から一九三〇名の労働者が参加して開催され、八〇年代を三里塚・国鉄を基軸に、勝利的に闘い抜く方針を満場一致で確認した。一方、動労「本部」は三月五日六日、千葉県銚子市で「中央委員会」を開き、「働こう運動」なる生産性向上運動を路線化し、産業報国運動の第一歩を踏み出すと同時に、「本部」革マルは、「働こう運動」に対する組合員の反撃をかわすために、土屋粹を使い「処分が出て動労千葉の財政はピンチだ。組合員の九〇％は『本部』を希望している。今こそ千葉オルグに入ろう」と発言させ、三月動労千葉破壊オルグを決定した。革マル分子を千葉の泥沼に引きこんで粉砕してやろうではないか。

本号では、三・六集会で圧倒的に確認された基調報告の要旨について掲載します。

36全国労働者集会 中野書記長基調報告(要旨)

動労千葉一三〇〇は反対同盟・支援とともに、労農連帯の真価をかけ、八一・三ジェット決戦ストを闘った。この闘いの意義は、一年間をへて動労千葉はあらゆる弾圧・処分のうけつつ敢然と闘っており、今日もこれだけの仲間が結集し、全国に運動が拡大していることにあるといえる。

戦後体制を一変する攻撃

戦後世界体制の崩壊的危機の中で、レーガンは米帝の危機を、戦争の火種を世界中にまきちらすことで生きのびようとしている。日本においても軍事費の膨張・リムパック八二・日米共同演習・天皇制復活・教科書改悪のよう戦後を画する攻撃がつついてきている。しかし労働運動の内部はどうだろうか。右翼労働「統一」の流れが急ピッチで進んでいる。これは総評労働運動を解体し、国鉄労働運動を同盟・J〇路線に変え、軍大化・改憲の反動攻勢に見合う体制づくりと産報化の動きとして進んでいる。

反対同盟を守り、二期阻止・三里塚の勝利を

これと前後し、三里塚反対同盟解体攻撃がしかけられてきている。これは反対同盟全体を話し合い路線に条件賛成派へもっていく運輸省・公団の全体重をかけた攻撃であり、これまでとは質が違ふものだ。同盟は、これを見事に粉砕し、話し合い拒否・実力粉砕の原則を堅持し、石橋・内田を解任し、二期阻止の陣形を築いている。我々は同盟の苦闘を我がものとし、今まで以上に連帯を強固にし、二期阻止、三里塚闘争勝利をかちとらなければならない。

81-3スト指導の先頭に立つ中野書記長(36総評)



今日、新聞に国鉄の記事が載らない日がない程国鉄労働運動に対する未曾有の破壊攻撃が激化している。これは日本労働運動の背骨、国鉄労働運動を叩きつぶす攻撃である。国労は当局と一緒になって「国鉄を守れ」といい、動労「本部」は「国鉄を守るために働こう」というまでに落ちこんだ。三里塚に一線を画す、貨物安定宣言、津田沼の仲間を権力に売り渡したことからみるなら当然であり、国鉄労働運動解体攻撃の渦中で、当局の手先となり、全国の労働者にその刃をといている。だから、労働運動は血を流しても原則は守らねばならないのだ。

反合・三里塚を結合した労働運動の構築をかちとれ

労働者は闘わねば生きられない時代が到来しており、今こそ原点をとりもどさねばならない。日本労働運動を我々が握り、指導する立場にたちきらねばならないし、チャンスが到来している。

どこにポイントをおいて暗雲を払うのか。焦点は国鉄と三里塚であり、改憲・軍大化・戦争の危機の中で、八二年に一大勝負をしかけなければならぬ。それは、日本の反権力闘争の砦、住民闘争の砦、闘う仲間の結集する三里塚で勝利し、反動攻勢の逆転をかちとることだ。三里塚を闘う労働運動、三里塚と反合を結合した労働運動を構築することだ。三・二八の爆発は確実であり、今日を八〇年代大攻勢の戦闘宣言の場にしようではないか。今こそ本物の労働運動をつくり出そう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊
動労千葉

82.3.10
No.988

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)四五二(22)七二〇七